

人文科学専攻

●専攻の教育理念と教育目的

人文科学専攻は、人文諸科学の理論及び応用を研究し教授することを通して、人文諸科学に関する高度で専門的な知識と能力を有し、かつ広範な学際的視野を合わせ持ち、適切な問題解決能力を備えた、「高度専門職業人」及び「高度で知的な素養のある人材」を育成することを目的としています。この目標は、ディプロマ・ポリシーに具体的に示されています。

●専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

<知識・理解>

1. 人文諸科学に関する高度で専門的な知識を有する。

<思考・判断>

2. 人文諸科学の学問領域の高度な研究方法と学際的視野をもって、自ら設定した課題について考察することができる。

<関心・意欲>

3. 高度な専門の知を実社会との関わりの中で検証し、自分の役割を自覚することができる。

<態度>

4. 高度な専門の知を実社会に応用することによって、知識基盤社会を支えることに貢献できる。

<技能・表現>

5. 高度で専門的な知を社会一般に向けて的確かつ簡明に伝えることができる。

●専攻のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

<知識・理解>

1. 人文諸科学の専門的な学問内容及び方法について、学士課程修了相当の基礎的な知識を有している。

<思考・判断>

2. 人文諸科学におけるいずれかの専門領域の研究方法を用いて、自ら研究課題を設定することができる。

<関心・意欲・態度>

3. 人文諸科学の高度な研究に関心を持ち、身につけた専門的な知によって、生き生きとした知識基盤社会の発展に寄与したいと考えている。

<技能・表現>

4. 自らの研究テーマについて、口頭表現や文章表現によって、的確に伝えることができる。

**●専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)
カリキュラムの概要**

「人間文化研究」と「言語文化研究」の2つの教育研究領域を置いて教育研究を行います。

「人間文化研究」は、人間存在の意味、倫理や宗教の役割、芸術理解の方法、人間の行動原理、社会の中の人間関係の仕組み、自然環境の中で営まれる地域の生活、文化財の調査研究、日本・アジア・欧米の歴史、といった様々な視点から人間の文化を捉え直し、根源的な深層から表層的現象にいたる文化の諸相を専門的・学際的に探究する教育研究を行います。

「言語文化研究」は、言語の機能や構造を様々な言語について考え、また、言語によって構成された芸術である文学とそれを生み出す文化を専門的・学際的に探究することによって、日本・アジア・欧米の言語文化の特質を解明します。あわせて、言語のより高度な運用能力を育成し、異文化を深く理解する文化的感性を高める教育研究を行います。

両教育研究領域とも、必修科目として「コア科目」4単位及び指導教員(主指導教員と副指導教員の2人)の担当する「課題研究」4単位と「演習」4単位、選択必修科目として人文科学専攻の開講科目から12単位以上、選択科目として法文学研究科の開講科目から6単位以上、以上合計30単位以上を履修します。この際、一般選抜及び外国人留学生特別選抜の学生は「特論」を6単位以上、社会人特別選抜の学生は「特論」を4単位以上履修することになっています。また、指導教員から研究指導を受けて、修士論文を作成します。